

トピックス

(1) 第19回日本心臓リハビリテーション学会学術集会展示にてストレングスエルゴ2機種を展示、

- ・テーマ:重複障害時代の心臓リハビリテーションの役割 会期:2013年7月13日(土)~7月14日(日)
- 会場:仙台国際センター他 ホームページ: <http://www2.convention.co.jp/19jacr/>
- 来場者数は7000名を超え、前年比140%の参加があり、とても盛況な状況でした。

① フクダ電子株式会社殿および日本光電工業株式会社殿の展示ブースにて、ストレングスエルゴ8を展示
これから心臓リハビリテーションを始める施設の方々の来場者も多く、展示ブースも活況を呈しておりました。

② ストレングスエルゴの関連論文抄録

今回の学術集会で、CPX測定におけるストレングスエルゴ8のご活用事例は、発表論文の約3割で使用されているようです。約3割の根拠は、実際に会場でストレングスエルゴをご使用いただいているかご確認させていただいた結果です。個別の抄録を掲載できる件数を遥かに超える発表でストレングスエルゴを活用されており、この場を借りて御礼申し上げます。



Q&A ワンポイント紹介

(1) 「ストレングスエルゴ 240」の負荷トルクのかかり方のご紹介

Q:皆様からのご質問で、以下のようなお問い合わせがあります。

「ペダルの負荷を変更したが、ペダルをゆっくり漕いでいる時に負荷が変化しないような気がします。」

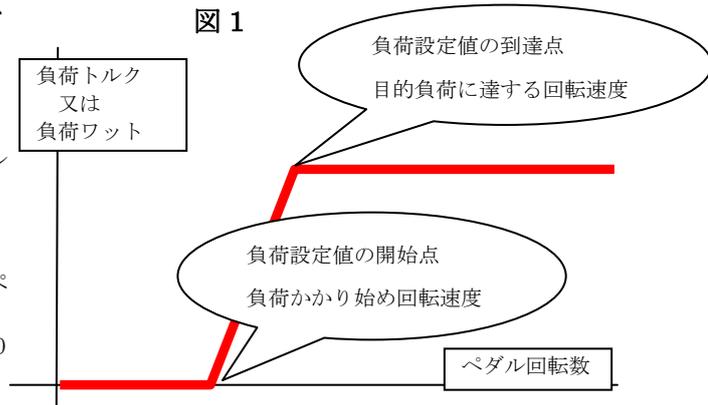
A:これは、負荷のかかり方が以下のように設定されているために生じる現象です。

負荷のかかり初めから設定された負荷設定値までの到達方法を以下にご紹介します。

① 図1のような負荷トルクを設定した場合に、実際にペダルにかかる負荷を0から徐々に目標値に近づけるために、徐々に負荷を増加しています。一気に負荷を目標値に設定すると、スムーズに漕ぐことができません。

特にワット負荷を設定する場合には、ペダルの回転速度と負荷トルクの積がワット負荷となるため、ペダルの回転速度が0の時は、無限大の負荷トルクが必要になります。

しかし、無限大の負荷トルクがかかると、ペダルを漕ぐことができません。そこで、ある程度のペダル回転速度までは、ワット負荷を0から徐々に増加していく必要があります。



② 設定方法について

その他 → システム管理者モード にして、再度その他 → システムメニュー → システム設定を選択し、右の図2の運動タグの画面で、アイソトニック運動とアイソパワー運動の各運動モードの「負荷かかり始め回転速度」と「目的負荷に達する回転速度」を上記の内容に基づいて設定します。

図2の例では、アイソトニック運動の場合、負荷かかり始め回転速度は10r/min、目的負荷に達する回転速度は20r/minと設定されているので、回転速度10r/minまではペダル負荷は全くかかりません。ペダル回転速度が10r/minを超えると、徐々に負荷が増えて、20r/minに達すると目的の設定された負荷となります。

アイソパワー運動の場合は、負荷かかり始め回転速度が15r/minなので、15r/minまでは負荷が全くかかりません。

15r/minを超えると35r/minまで徐々に負荷が増えていき、35r/minで目的の設定された負荷となります。

なお、ストレングスエルゴ8でも、同様の設定ができます。

図2



あとがき

今後も、貴重な情報をお寄せください。

ストレングスエルゴホームページURL: <http://www.mee.co.jp/sales/other/strengthergo/confirm.html>



発行元: 三菱電機エンジニアリング株式会社
名古屋事業所 営業部 業務課
〒486-0906 愛知県春日井市下町屋町字下屋敷 139
TEL (0568)-36-2096 FAX(0568)-36-2376